

### 1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2070201542		
法人名	医療法人 梓誠会 梓川診療所		
事業所名	グループホーム あずさ小町		
所在地	長野県松本市梓川梓2344-1		
自己評価作成日	平成27年12月14日	評価結果市町村受理日	平成28年3月17日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間を通して梓川西保育園・梓川中学校・ボランティアとの交流を行っています。</li> <li>○ 花や野菜を育て、収穫の喜びや季節を感じていただいています。</li> <li>○ 利用者と一緒に毎月1回食事作りを実施し、作る事・食べる事を楽しんでいます。</li> <li>○ ターミナルケアに力を入れています。ご家族・医療機関・職員との連携にて安心して終末期を迎える事ができるように支援をしています。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=t_rue&amp;ligvosyoCd=2070201542-00&amp;PrEfCd=20&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=t_rue&amp;ligvosyoCd=2070201542-00&amp;PrEfCd=20&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<p>このグループホームのエントランスホールへ入っていくと、すぐベッドがあり利用者が横になっている。高齢化・重度化が進み、平均年齢87.4歳、介護度4と5の利用者が5人(平均介護度3.7)、車椅子使用者が5人となっている。</p> <p>このような状況の中でも利用者本位に考え、ターミナルケアまで支えているのは、診療所を中心とした同一法人の力と職員の努力のおかげである。毎日の詳細な健康記録、そして月2回のかかりつけ医の往診、そして急変時にはすぐ対応してもらえる手厚い医療体制があって、利用者・家族の安心感・信頼感が高い。また、職員は利用者アンケートにも表れているように、「生き生きと働いている」、「柔軟な対応をしている」といった点でも優れている。</p>
--

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	NPO法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成28年1月22日

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。**

ユニット名( )		項目		項目			
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが集まるエントランスホールに理念を掲示し、毎朝の朝礼に皆で音読し、日々の仕事につなげている。	理念を基に、4つの行動方針(基本方針)が打ち立てられていて、これらを念頭に毎年の運営方針が話し合われている。そして、年度末に運営方針の反省を行い、それを次年度の具体的な事業計画や年間計画の作成に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	梓川西保育園児・梓川中学校生徒との交流を行っている。地域の方々のボランティアも常に受け入れ交流を図っている。	保育園の運動会参観をしたり、年長児との交流を図ったり、中学校の生徒の職場体験を受け入れたりしている。また、地域のボランティアの支援でミニ運動会を行ったり、節分行事を行ったりした。そして、社協の協力を得て、近くのバラ園や近代美術館に出かけたりした。また、法人の初めての「梓誠会祭」では多くの地域の方と知り合うことができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員・包括センター職員と2か月に一度は話し合いを持ち情報交換を行っている。また、認知症介護の相談体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話や他のグループホームの情報などは、ミーティングで取り上げたりして、改善に繋げている。	運営推進会議には、民生委員・包括センター職員・他のグループホーム代表・家族代表の参加を得て、情報交換を中心にして話し合いを重ねている。地域の自治会とは繋がりを持つように働きかけを続けている。	地域に開かれたグループホームになるために、地域の自治会のメンバーの参加を引き続き期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には包括センター職員が来られ連携を取っている。グループホームの「小町だより」や法人の「あのねだより」を渡し見ている。	グループホームの「小町だより」や法人の「あのねだより」を家族や運営推進委員に配布し、施設内にも置いて、グループホームの取組や活動を知らせている。また、包括センターの担当職員は異動がなかったため、気安く連絡をとることができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に安全面に配慮し、特例としてご家族の了解を得ながら短時間施錠することもあった。	家族の了解のもと、一時的な安全対策の措置として、玄関の施錠をしたり、個人の利用者の車椅子のベルトや、ベッドの柵を使用することがあった。同一法人内で、身体拘束や虐待等についての意識調査を行い、研修を行っている。	

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一法人施設内で勉強会に参加したり、ミーティングの場で事故報告書の問題点を話し合ったりしている。外部への研修も参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修会に参加して理解している。相談があれば活用する予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をしているので納得されている。問合せ時にも理解が得られるよう説明をしている。また、施設見学に来ていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との対話の時間を大切に、話し合う機会としている。意見箱を設置している。家族会時に意見・要望を聞き、運営推進会議で話し合っている。	年3回、お花見・夏祭り・クリスマスの行事の折に4～6家族の参加を得て、家族会を開いている。家族と職員とが一緒になって情報交換したり、ターミナル時の経験を話し合ったりして記録に残している。家族同士が交流を深めたり、意見や要望を話し合う機会があるとさらによい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングで職員の意見を聞き、反映できるようにしている。また、管理者主任が同一法人施設の各部署の責任者が集まる会議で話し合っている。	毎月1回のミーティングには、話し合っほしいことを書き込む「何でもノート」を活用したり、毎日3回の打合せには連絡用の「一日ノート」を活用したりして、職員の意見や提案が反映できるようにしている。また、同一法人内で、安全衛生・防災・食事検討・広報の各委員会に分かれ、活動を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員全員の人事評価・個々のアンケート調査を実施し、相談役の面談を通して、職場環境改善やスキルアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や勉強会にはなるべく多くの職員が参加できるようにしている。新人研修プログラムがあり、活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームの職員の方々と交流の機会を作っている。お互いの運営推進会議に出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談や施設見学で、本人の要望・希望を取り入れて、安心・安全な生活を送っていただけよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や施設見学で、ご家族の要望や困難状況を伺い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の望むサービスの提供をすると共に家族支援もしていく。また、本人の身体の状態を見ながらサービス計画を立てている。1か月で必ず再検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に適した作業と一緒に見つけ、職員と一緒に達成感を味わう。利用者同士が協働しながら生活できるように場面作り(全員で料理)や声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	パラ園見学・夏祭り・クリスマス会などのイベントなどもご家族に参加を呼び掛け一緒に楽しんでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て、外出・宿泊の機会を設けている。また、美容室で毛染などを行い地域の方とも顔見知りになっている。	家族との外出や地域の美容院通い、お正月・お盆の里帰りなど、いろいろな機会を持つよう支援している。また、利用者に友人が訪ねてきた場合などは、いつでも気安く話すことができるよう、話す場所などを提供して、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクリエーションや誕生日会、昼食作りなどの行事に参加して皆で喜びを共有している。利用者同士の関係が良くなるように職員が調整役となって支援している。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても相談があれば受け入れるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と1対1でゆっくり話ができる時間を作り、相談相手となり、希望や意向をとらえている。そして、その希望や意向が担当に届くよう個別記録を毎日記入し、担当はそれを見て密接な関わりを図っている。	利用者の生活歴を把握するために、家族に「情報収集表」に記入してもらっている。また、職員は常に利用者との相談相手となって聞き取り、「個別記録」にできること探しなどを記入し、利用者担当の職員に知らせるようにして、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの利用者の生活歴を見たり、情報収集を行ったりして、本人の持っている力を引き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの様子を観察し、把握に努めている。各自のペースに合わせた生活ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンスを行い、担当者の意見を聞き、介護計画を立案、実施している。	介護計画は、家族の意見や思いを重要視して作成している。また、利用者担当の職員の意見を反映するようにしている。そして、毎月のカンファレンスで、「評価表」によるモニタリングを行い、利用者の現状に即した介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入して、ミーティングで統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人の診療所・老人ホーム・リハビリテーションと連携して、本人が希望するサービスが利用できるようにしている。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同一法人施設とのレクリエーションやボランティアなどの行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望を大切に、24時間体制で安心した生活を支援している。ご家族の希望があれば他の病院も紹介している。歯科の往診もしている。	同一法人の診療所が隣接されていて、かかりつけ医の往診が月2回あり、急変時にもすぐ対応できるようになっている。また、専任の看護師がおり、毎日詳細な健康記録を「個別記録」に記入し、手厚い医療が受けられるようになっている。外科や歯科などの受診も支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常に在勤して、個別記録の保健・健康欄に詳細な記録を取り、本人の体調管理を行っている。特変時の医師への連絡・対応や相談・アドバイスもすぐ受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	記録や内服薬などの情報提供を行い、お見舞など様子を伺ったり、ご家族との連絡を取ったりして様子も把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族・医師・職員で終末期の話し合いを行い、方針を共有してその方にとって最良の支援となるようにしている。	利用者の重度化に伴い、家族・かかりつけ医・職員との間で、ターミナルケアのマニュアルを基に、終末期についての話し合いを行っている。本年度も2人の看取りを行い、最期の見送りを利用者職員とで行った。このように、利用者の家族の思いを大切にターミナルケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや年1回の救急手当の勉強会に参加し、職員全員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、同一法人施設の訓練に参加し各部署でも行っている。また、一斉連絡配信システム(オクレンジャー)で送信訓練も行っている。	年2回、同一法人と連携して、防災訓練を行っている。近隣の方に声をかけたり、夜間の場合は、隣接の同一法人の施設の職員の応援を受けたりするようになっている。また、ヘルメットやおんぶひもを用意したり、非常食を1週間分備蓄したりして、いざという時の万全を期している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや言葉遣いには注意して、日々のケアにおいてプライバシーを損なわない配慮をしている。	利用者の中で自己決定できにくい方に対して、それぞれに応じた接し方を行っている。また、それ以外の利用者に対しては、言葉かけも「～してください」ではなく「～しましょう」と言うように、自己決定しやすいように努めている。そして、トイレや風呂に誘う場合には特に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向に沿って生活できるように、職員は統一した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、本人に合わせた暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度の散髪を行っている。季節に応じた衣服を職員が提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で野菜を栽培し、収穫した物の皮むきなどの下準備を一緒に行い、料理して食べている。また、食べられる量や形なども一人ひとりに合ったように提供している。	食事は、ご飯やみそ汁を除いて、業者委託になっている。しかし、施設内の畑で野菜作りをして、その野菜をおかずにしたり、月1回の食事作りをして、利用者と職員とで楽しみながら食べることができるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調など把握して、食べられない時には形を変えたり、栄養補助食品などを提供したりして、体力維持ができるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声掛け、見守りをし、できない方には職員が支援して清潔保持に努めている。月2回歯科往診があり、口腔ケアが充実している。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、その方の排泄パターンを把握したり、また声掛けや時間での誘導を行いその方に合わせた支援をしている。	なるべくおむつを使わず、パンツを使うように、排泄チェック表を活用したり、夜間は定期的に声かけしたりして、誘導・支援している。また、トイレ誘導には気を配り、誰にも分からないように声かけを工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳を提供している。体操・散歩などで体を動かし、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、木曜日・日曜日に実施。身体状況に応じて一般浴・特浴などの入浴方法で支援している。	利用者の重度化により、同一法人内の特浴を利用したり、職員2人の付添介助をしたり、寝たきりの場合は清拭に変えたりして、対応している。また、入浴を嫌がる利用者には、言葉を変えて入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に関係なく、その方の体調によって常にベッドに横になれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者が一人ひとりの薬を把握し、症状の変化など記録に残し、主治医との連携で内服薬の調整を行っている。職員全員が服薬マニュアルに沿って支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの経験や知恵を発揮する場面を作っている。(編み物・食器洗い等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	同一法人施設のリハビリテーションの機器を使用して運動したり、テラスに出て日光浴、公園への散歩に出かけたりして気分転換を行っている。また、車を使って屋外に出かけたり、家族の協力を得て外出を支援している。	車椅子利用者が5人、歩行器使用者が1人と、外出が困難な状況になってきているが、同一法人の施設でのリハビリやストレッチ体操、テラスでの日光浴、近くの公園への散歩などを楽しんでいる。また、車椅子対応の自動車などを利用して外出し、季節の移り変わりを見たり、外食を楽しんだりしている。	



グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理は事業所側で行っている。本人の希望に応じた小遣いを預かり、いつでも使用できるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、常に電話はかけられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは毎日清掃し、衛生面に配慮している。ホール内は季節の花を飾ったり、曆に合わせた飾り付けをしたりしている。	1階には、吹き抜けのエントランスホールとフリースペースが廊下で繋がっており、広くて明るい。そして、床暖房もきいていて心地よい。また、季節の花で飾られ、利用者の作品なども展示されていて、温かな雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはテレビやソファ、ベッドを置いて、一人ひとりがゆっくり落ち着いて休んだり、くつろいだりできる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は毎日清掃し、衛生面に配慮している。本人の使い慣れた備品等を持ち込み使用していただいている。	居室はすべて2階にあり、エレベーターで行き来している。利用者は1階で過ごすことが多く、エントランスホールに置かれたベッドで一日を過ごす利用者もいる。そのためか、居室の中はこざれいさっぱりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室の場所には目印やわかりやすい言葉で表示してある。見守りや声掛けでお互いの疎通をとっている。		